

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	機械学習を応用した乳癌の新規予後予測組織学的バイオマーカーの開発
研究責任者	越智 三枝子
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>病理組織標本は、近年デジタル化により機械学習分野での応用が進められており、特にがん領域において研究が盛んに行われています。</p> <p>乳がんは本邦において女性の11人に1人が罹患しており、本邦や欧米において女性のがんの中では最も頻度が高いがんです。乳がん切除後の治療決定には病理学的評価が大きく関わっています。乳がん切除標本から、機械学習の手法を用いて病理標本からがんの特徴を抽出し、既存の病期分類よりも精度の高い予後予測マーカーを確立することで、より適切な治療選択が可能となることが期待されます。</p> <p>今回の研究では、当院で乳がん切除された方の病理組織標本をデジタル化し、画像から機械学習の一手法である畳み込みニューラルネットワークを用いて患者予後予測モデルを構築することを目的とします。</p>
研究方法	<p>本研究の対象となる方は、2007年1月から2015年12月までに日本赤十字社医療センターにおいて、乳がんに対して手術を受けた後、薬物療法あるいは術後放射線療法を受けた方です。</p> <p>研究は次のような方法で行います。上記期限内に日本赤十字社医療センターで乳がんに対して手術を受けた方の病理組織標本の腫瘍組織と患者さんの電子カルテのデータを用いて、予後を判定するプログラムを作成します。プログラムがより正確に治療後の状態を予測しているかどうか、既存の病期分類などの予後予測マーカーと比較します。なお、上記で作成したデータは全て匿名化した上で研究を行うため、個人情報が増える心配はありません。</p> <p>本研究に参加を希望されなくても、治療上の不利益を被ることはありません。もし本研究に参加を希望されない方は研究から除外いたしますので、下記担当者までご連絡ください。本研究の結果は学会や論文として発表する予定です。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 病理部 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：病理部 越智 三枝子、熊坂 利夫 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>